

新世代モデルを拓いた 公衆無線LANスポットサービス

真野 浩 ●アライドテレシスグループ ルート株式会社 代表取締役

「HSDPA」と「Wi-Fi スポット」による次世代無線LANサービスの登場 携帯ゲーム機や新幹線、バスなどで利用が可能に!

802.11n規格の登場で、無線LANの高速化が進み、カフェや空港、ホテルなどに普及している、公衆無線LANサービス（以下、Wi-Fi^{(*)1}スポット）のブロードバンド化が一挙に進んでいる。一方、モバイル（広域無線通信）もW-CDMA^{(*)2}（384kbps）からHSDPA^{(*)3}（7.2Mbps）へと高速化したため、ADSL/Wi-Fiに代わって、HSDPA/Wi-Fiコンバージェンスが、新世代の快適なWi-Fiスポット環境を実現し始めている。

キャリア主導のWi-Fiスポットサービス

現在、通信事業者（キャリア）が有償でサービスを提供している主なWi-Fiスポットには、

- (1) ソフトバンクテレコムの「BBモバイルポイント」
- (2) NTTドコモの「Mzone」
- (3) NTTコミュニケーションズの「ホットスポット」
- (4) NTT東/西の「フレッツ・スポット」

などが挙げられる。これらのサービスはお互いに相互接続（ローミング）しているところもあり、例えば、MzoneのアカウントでBBモバイルのサービスが利用できる（その逆は不可）。また、BBモバイルのアカウントをもっていないくても、@niftyのアカウントでBBモバイルを利用できるようになっている。

メーカー主導のWi-Fiスポットサービス

キャリア以外のサービスとして、メーカー主導であるバッファローの「FREESPOT」（無料）があるが、これは喫茶店やホテルなどでアカウントなしでフリーに利用できるサービスである。同様に、メーカー主導で話題となったサービスに「FON」（スペインのベンチャー企業）がある。FONは、その中核になるソフトウェア「FON」とFONが搭載されたアクセスポイント「La Fonera」を購入し、ユーザー同士でそのアクセスポイントを共有しあって利用（無料）するモデルである。そのほか、単独事業体としてのライブドアの「LivedoorWireless」やワイヤ・アンド・ワイヤレスの「Wi 2 300」などがある（図1右側）。特に最近のサービスでは、最新の無線LAN規格「802.11n」による300Mbps

の高速なサービスも提供され始めている。

なお、無線LANの規格については、家庭でもオフィスでも、すでに54Mbpsの802.11a/gは普及しているが、最大600Mbpsの802.11nについては、現在、2010年3月の標準規格化を目指して基本的な部分はほぼ完成している状況である。このため、ドラフトベースの仕様に基づいた300Mbpsの製品が、相次いで発表され普及してきている。

アグリゲーションサービス提供事業者

アクセスライン提供事業者や無料接続提供事業者とは別に、アグリゲーションサービス提供事業者（アグリゲーター）が登場している。アグリゲーターは、自分ではアクセスポイントを持たないが、あらゆるWi-Fiスポットをローミングして使用できるというサービスを提供している。したがって、会員になると、BBモバイルでもMzoneでも利用できるようになる。このようなアグリゲートビジネスを展開しているのは、図1の中段に示す、トリプレットゲートの「WIRELESS GATE」、日本通信の「bモバイル/Doccica（ドッチーカ）」などである。

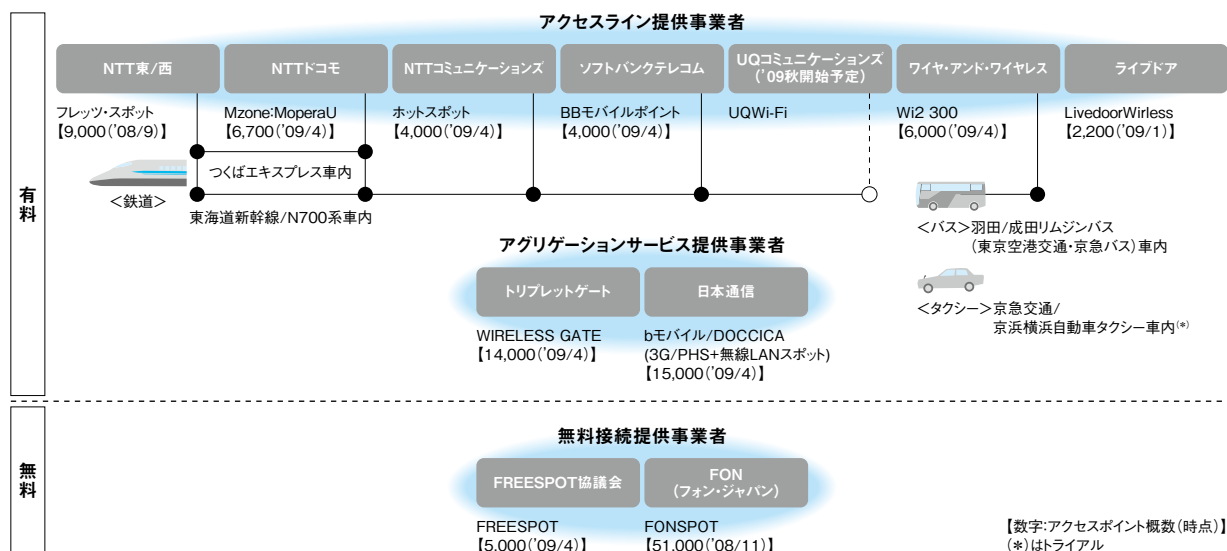
多彩なサービスを提供できる「Wi-Fiスポット」

Wi-Fiスポットサービスは、日本ではADSLなどブロードバンドのおまけ的に提供されることが多く、単独のビジネスとしてサービスを提供している例は少ない。

そのような中で、ライブドアは、インフラを整備し事業体としてきちんとアクセスチャージを取ってビジネスを行っているほか、ワイヤ・アンド・ワイヤレス（旧アッカワイヤレス）も、単独事業としてWi-Fiスポットサービスを開始している。後者の特徴は、エアポートリムジンバスや京急タクシーなど乗り物系へのサービスのほか、丸の内などのような再開発された商業地域や観光都市などで、エリア限定のサービスを提供していることである。

また、空港やホテル、新幹線、つくばエクスプレスをはじめ、JRや東京メトロの各駅でも使えるようになり、Wi-Fiサービスに接続すると、ポータルサイトが開いて観光情報やショッピング情報が表示されたり、Wi-Fiサービスがエリア

図1 公衆無線LAN (Wi-Fi) サービスの主要事業者の概要



出所
 ・ <http://bb.watch.impress.co.jp/cda/special/23471.html> (BroadbandWatch、「ネットブック特集」第1回)
 ・ <http://bb.watch.impress.co.jp/cda/news/24732.html>
 ・ <http://www.softbanktelecom.co.jp/consumer/wlan/index.html> (ソフトバンクテレコムHPより)
 ・ <http://www.mapion.co.jp/custom/mzone/index.html> (NTTドコモHPより)
 ・ <http://www.hotspot.ne.jp/service/area.html> (NTTコミュニケーションズHPより)
 ・ <http://www.wi2.co.jp/> (ワイヤ・アンド・ワイヤレスHPより)
 ・ <http://www.tripletgate.com/wirelessgate/> (ワイヤレスゲートHPより、「フレッツ・スポット」オプション含む)
 ・ <http://www.bmobile.ne.jp/personal/doccica/index.html> (bモバイル・ドッカーカHPより)
 ・ <http://www.freepot.com/> (FREESPOT HPより)
 ・ <http://www.fon.ne.jp/cms/press.html> (FONジャパンHPの'08/11/6プレスリリースより)

ポータル的なサービスとバンドルして提供されてきている。

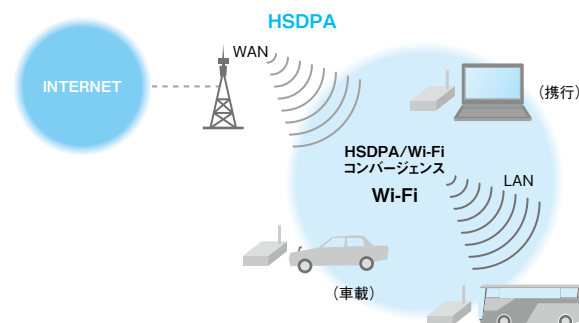
さらに、最近では、PC以外にもiPhoneをはじめ、携帯ゲーム機「ニンテンドーDS」やデジカメなどのように無線LANを標準搭載した端末が次々に登場している。これに加えて、マクドナルドなどのファーストフード店やスターバックス、ドトール、ルノアールなどの大手カフェでもWi-Fiサービスが提供されるようになったため、ほとんどの都市部で、サービスを利用できる環境が整備されてきている。

次世代Wi-Fiスポットサービスの登場

Wi-Fiスポットサービスは、2008年頃から大きく変化し始めた。これは、NTTドコモやイー・モバイルなどから、3.5Gと言われる3.6Mbps/7.2Mbpsの高速なデータ通信サービス「HSDPA」が提供されるようになったからである。

これまで、Wi-Fiスポットのアクセスポイントを設置するには、事前にエントランス(インターネットと接続用のネットワーク)として、有線のADSLやFTTHなどの回線工事が必要だった。しかし、これを無線のHSDPAで代替できるようになり、工事コストを大幅に削減できるようになった。また、無線LANを搭載した高機能な携帯電話機として、NTTドコモの「FOMA」に続いてイー・モバイル「EMONSTER」が発売されるなど、個人用の携帯電話からもWi-Fiが利用

図2 HSDPA/Wi-Fiコンバージェンス



できるようになった。このため、図2に示すように、HSDPAの料金が「定額制」「IP化」されたことなどを背景に、「エントランスとしてのHSDPA」と「アクセス回線としてのWi-Fiスポット」のコンバージェンス(統合)によって、新しいサービスモデルが実現できるようになった。

さらに、UQコミュニケーションズのWiMAXサービス「UQ WiMAX」(下り40Mbps/上り10Mbps、2009年7月～)や、ウィルコムの子会社PHSサービス「WILLCOM CORE XGP」(下り20Mbps/上り20Mbps、2009年10月～)などの商用サービスが開始予定であり、今後のワイヤレスブロードバンドサービス市場の進展が注目される。

- (※1) Wi-Fi: 無線LANはWi-Fiアライアンス(Wireless Fidelity Alliance)によって相互接続が推進されていることから、「Wi-Fi」(ワイファイ)という愛称で普及している。
- (※2) W-CDMA: Wideband Code Division Multiple Access、チップ速度が3.8MHzで、周波数帯域がより広く拡散され高速通信を実現できる。
- (※3) HSDPA: High Speed Downlink Packet Access、W-CDMAの発展型として下り回線の高速化を図った方式。下りで最大約14Mbpsの転送速度を提供。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp